

シマえもんとレポート見破り隊

～ChatGPTはバレるのか～

嶋田ゼミ シマえもん アンケート調査
総数：8人（メールにて募集）
実施期間：2023年10月11日～18日
実施方法：Google form

関連文献
鯉部 祥平、『「なりすまし 正気と狂気を揺るがす、精神病院潜入実験」 難病との闘いを経て暴く「伝説の実験」に潜む真実』
(<https://toyokeizai.net/articles/-/574242>)
(東洋経済オンライン、2021年5月)



はじめに

現在話題の生成AI「ChatGPT」について、2023年4月各大学が教員や生徒に向けて、それぞれ注意・留意事項を掲出した。

そこで、特定のテーマに対して**生徒が書いた2つの文章とChatGPTの生成した1つの文章**を大学の先生方に見比べてもらい、どれがChatGPTかを判断してもらうという調査を通して、Chat GPTの利用について客観的にみることができるのではないかと考えた。

この調査を通して、生徒と先生方の双方が現状を理解し、課題レポート作成に向けて何が必要か明らかにしていく。



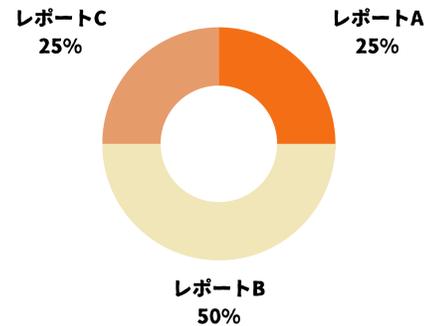
考察

300文字という短い文章であるため、ChatGPTを見極めるのは非常に困難だろうという考察を立てた。

どれがChatGPTだと感じたか

レポートB

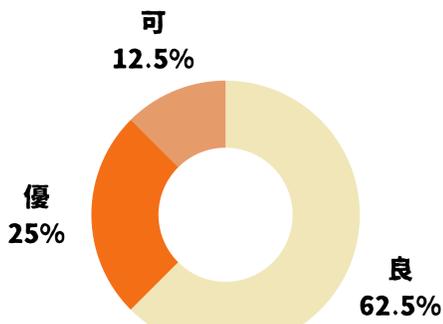
- ・根拠が曖昧
- ・違和感を感じる
- ・情報が網羅的すぎる
- ・ChatGPT特有の文章構成であること
- ・既存情報の寄せ集めの感じがする。



ChatGPTが利用されていると感じたことがある先生

はい
37.5%

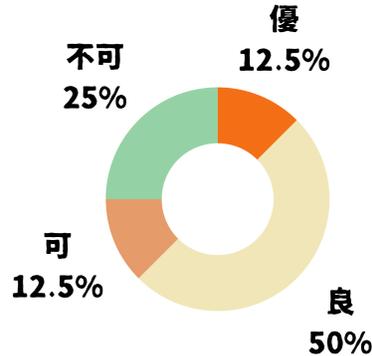
レポートA



[評価理由]

- ・**優**
最もしっかりと議論していると感じたから。過不足なく叙述されているため。
- ・**良**
内容は良いが、最初と最後の文章に齟齬が見られる。
- ・**可**
内容に論理的な整合性がないように思われる。

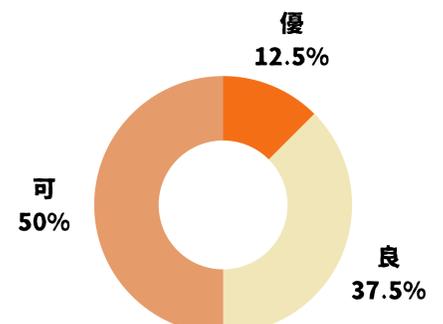
レポートB



[評価理由]

- ・**良**
意見としては良いが、学術的なレポートの書き方が不十分であるため
独創性が認められるが、論理性に欠ける。
- ・**可**
キーワードの羅列という印象。
- ・**不可**
ChatGPTの使用が丸わかりなので不可。
近年の若者風の日本語表現をしている。

レポートC



[評価理由]

- ・**優**
全体が首尾一貫した構成となっており、事実と意見を分けて書くことが出来ている。
- ・**良**
質問に対する回答になっていないが、考え方は評価できるため
- ・**可**
日本語として正しくない
論理的な飛躍や、文章展開に難があったため

結論

今回の調査から、先生ごとでChatGPTが書いた文章に対する認識は異なっており、全員に共通する**特定の判断要素**はないということが明らかになった。このことから、現時点ではChatGPTの使用を断定することは困難であるということが再認識された。

展望

今後ChatGPTの利用は生徒間でますます増加することが予測される。その中で一定数の先生方は「ChatGPT」を使っているのではないかと**疑いの目**を今以上に持つことになるだろう。その時にChatGPTを使っていない学生に対して、生成系AIを使っていたと**評価を見誤ってしまう**例も出てくる可能性がある。

今後のためには、学生と先生の双方がChatGPTに対する姿勢を改める必要がある。従来のようなレポート方式ではなく、より生徒一人ひとりの考えを求める**課題や試験**を大学でも増やしていく必要である。そして学生側はChatGPTの性質を理解したうえで、インプットの機会や学習の**効率化**の用途として活用していくことが求められる。

先生方の対策

使用を禁止し、もし発覚した場合は減点。剽窃をチェックできるツールを使用する場合がある。

試験のヒントの出し方を変える。生成系AIが作成した文章をそのまま答案とすることは、良くないと伝える

生成系AIの利用は否定しないが、それらに依存して課題を行うことは「学問をする」という点で疑問があると伝えている。

実際の調査に使ったレポート

日本におけるLGBTQの受け入れ



AIの発達による働き手不足への影響



発展途上国に最適な支援とは

